



## ～ 温室効果ガス排出量及びその低減対策 ～

### ◇温室効果ガス年間排出量

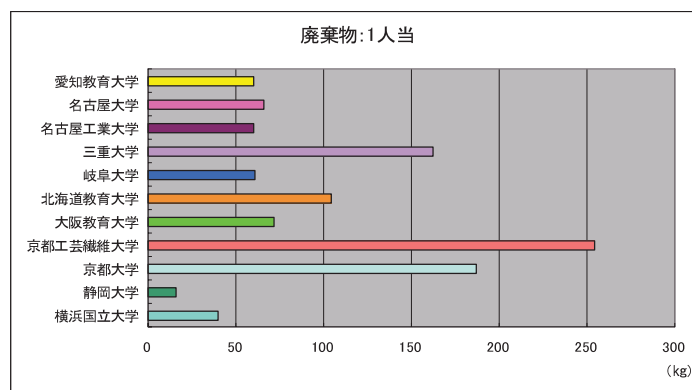
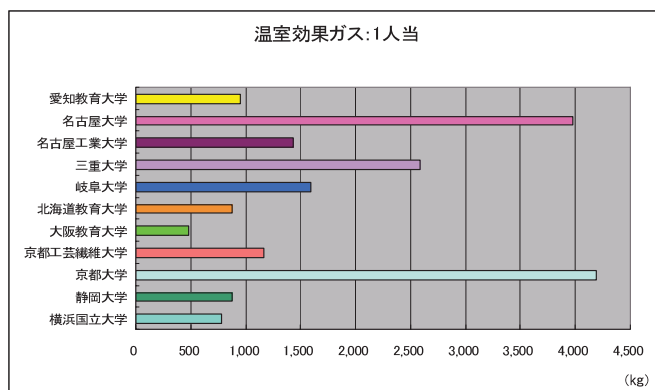
使用エネルギー	年間使用量	二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )		メタン(CH <sub>4</sub> )		一酸化二窒素(N <sub>2</sub> O)	
		排出係数	排出量	排出係数	排出量	排出係数	排出量
電気	6,226,032 kWh	0.555	3,455,448				
都市ガス	193,479 m <sup>3</sup>	2.08	402,436				
A重油	301,031 L	2.71	815,794				
下水処理量	58,105 m <sup>3</sup>	(※1)		0.0055	320		
一般廃棄物排出量	68,420 kg			0.00000096	0.1	0.0000565	4
(以下参考値)							
普通・小型乗用車	13,583,640 km	(※2) 2.32	(3,151,404)	0.00001	(136)	0.000029	(394)
合計			4,673,678		320		4

※1 名古屋地区、岡崎地区は公共下水に接続していますので表には含まれません。

※2 通勤・通学で使用するマイカーによる走行距離から10km/リットルとして計算しています。実際のガソリン購入量ではありません。

2007年度の温室効果ガスは、前年度と比較して2.6%増えました。節約キャンペーンや省エネルギーの通知等を実施しましたが、記録的な猛暑により冷房に使用するエネルギーが増加したものと思われます。

### ◇他大学との比較



2007年度の各大学の環境報告書から1人当たりの温室効果ガス排出量を比較して見ると総合大学よりかなり低いものの教育系・文化系大学よりは多い状況です。今後共温室効果ガス排出の抑制に努めたいと考えています。

2007年度の各大学の環境報告書から抜粋したゴミの排出量です。1人当たりの排出量はやや少ないグループに入っています。ゴミの排出量についても、分別を進め削減していきたいと考えています。

(※上記グラフにおいて北海道教育大学は、m<sup>3</sup>とトンとを換算していますので実際の数値と相違する場合があります。)

### ◇グリーン購入の状況及びその推進方策

本学では、環境負荷がより少ない製品（再生紙等）の優先的な購入を促すため毎年「環境物品の調達を推進するための方針」を作成し、ホームページ上で公開しています。主に使用するコピー用紙については、大学として把握出来る範囲で再生パルプ100%で白色度70%程度以下のものとして調達しています。その他に購入する物品についてもエコマーク製品を積極的に購入するように努めています。

また、工事を発注する時点でも、高効率の照明器具、エアコンの購入に努めています。

本学のグリーン購入状況公表ホームページ

[http://www.aichi-edu.ac.jp/shokai/johokokai/green\\_kounyu.pdf](http://www.aichi-edu.ac.jp/shokai/johokokai/green_kounyu.pdf)

## ～ ゴミ排出量及びその低減のための取り組み ～

減量化状況



### ◇2007年度 区分別ごみ排出状況

#### 事業系一般廃棄物

紙ごみ、可燃ごみ、生ごみ等	68,420 kg
木くず	4,540 kg

#### (普通) 産業廃棄物

金属くず (空き缶等)	7,950 kg
ガラスくず (ガラス瓶等)	9,300 kg
廃プラスチック類	4,790 kg
石膏	7,040 kg
蛍光管・水銀灯	369 kg
金属くず (特殊)	5 kg
汚泥	1 kg
廃酸	115 L
廃アルカリ	15 L
廃油	287 L
混合物 (ロッカー等)	20台
家電4品目	47台

※台とは、コンテナの台数をあらわす。

#### 特別管理産業廃棄物

重金属系薬品、重金属の含有した汚泥	1 kg
PH12.5以上の廃アルカリ	0.5 L
有害廃アルカリ	0.8 L
有害廃酸	13.3 L
廃油 (有機塩素化合物等)	125.8 L
引火性廃油	504.3 L
有害引火性廃油	10 L

#### 工事関連産業廃棄物

アスファルトがら等	60tと 1m <sup>3</sup>
コンクリートがら	361tと 154m <sup>3</sup>
木くず	35tと 135m <sup>3</sup>
廃プラスチック	2tと 104m <sup>3</sup>
混合物	61tと 7m <sup>3</sup>
ガラス・コンクリートくず	11tと 21m <sup>3</sup>
金属くず	47tと 4m <sup>3</sup>
廃石こうボード	15tと 29m <sup>3</sup>
廃石綿等	13m <sup>3</sup>
石綿含有建材	1tと 2m <sup>3</sup>
紙くず	0.2tと 30m <sup>3</sup>
廃油	1tと 396 L
蛍光管	131本

○紙ゴミ 28,360kg

○弁当箱トレー  
212.8kg 回収率40.2%

○新聞・段ボール  
10,320kg

○木くず 約30袋

個人情報等を含む書類は溶解後、古紙に再利用されています。  
6,380kg

古書はゴミにせず希望者に販売しました。  
備品 (パソコン等) は学内リユース情報で再利用されています。

本学では、運搬・処理業者の処理能力を事前に評価する「調査票」を作成し、金額のみでなく能力についても契約の参考とするようにしました。また、実際に処理施設の現地調査を実施し適切な処分がされているか確認しました。

コンクリートがら  
リサイクル

工事により発生した廃棄物についても適切に処分されているか manifestsにより管理しています。

## ◇ゴミ排出量及びその低減対策

2006年度から紙ゴミのリサイクルボックスを設置しています。また、従来から新聞紙・雑誌等のリサイクルも実施しています。紙ゴミを区別することにより経費の削減のみならず二酸化炭素の発生も抑えています。2007年度には、2006年度に比べて紙ゴミ量が増え、可燃ゴミ量が減っています。分別が進んできた結果であると思われます。また、植栽を剪定した後の木材を創造科学系で、彫刻や、木工、陶芸用の薪に再利用しています。

年度実績	可燃ゴミ量	紙ゴミリサイクル量
昨年度実績(2006年度)	83,750kg	15,630kg
今年度実績(2007年度)	68,420kg	28,360kg



彫刻・木工に再利用される剪定木材



陶芸用の薪に再利用される剪定木材

## ◇キャンパスクリーンデーの実施

### ○実施の主旨

私たち、ひとりひとりの学内美化に対する意識を高め、教育・研究の場にふさわしいキャンパスにするため、また大学見学説明会（7月30日・31日）に美しい環境を提供するため「キャンパスクリーンデー」を実施しました。

### ○実施結果

実施日時：2007年7月18日（水）  
15：00～16：30

場 所：愛知教育大学構内  
推定参加人数 600人（当初予測500人）  
推定ゴミ量 6トン（4トンコンテナ1.5台分）

学生への周知が充分であったこともありクラブ活動の学生だけでも100名以上の参加がありました。今年の特徴として参加人数が多かったのに比べてゴミ収集量が少なかったことが上げられます。これは、学生ボランティアによる定期的な清掃活動による放置ゴミの減少のためと思われます。

### ○今後の検討事項

落ち葉や小枝などについてはゴミの減量化のために森に堆肥として廃棄するように徹底したいと考えています。また、熱中症予防のために配布する飲み物は、引き替え券を配布し生協で冷えた物を交換してもらう等の対策を検討する必要があります。作業に使用した軍手は、回収し洗濯した後学生ボランティア等が使用するように再度配布されましたが、今後も軍手をゴミにしないよう末端まで周知する必要があります。

**参加しようキャンパスクリーンデー！** 毎年7月中旬～下旬の水曜日の午後に実施します。



## ～ 学生が自主的に実施する環境活動 ～

### ◇学内クリーン作戦

私達、愛知教育大学生協学生委員は生協の組合員である学生や教職員の方々がよりよい大学生活を送れるように、日々様々な活動をしています。そのより良い大学生活には整ったキャンパスが欠かせません。そこで私達が、日常的な環境活動の一つとして行っているのが『クリーン作戦』です。10・20・30日を実施予定日として、昼休み時間を使い活動しています。活動内容としては、第一共通棟の机の中のゴミや、授業で余ったレジュメの回収です。12:30になったら第一共通棟の教務課前の電光掲示板の下に集合し、そこでいくつかの班に分かれ20分ぐらいかけて清掃作業を行います。その後、それぞれのゴミやレジュメを分別し終わります。まだ使えるレジュメは委員会に持ち帰り、裏紙として再利用しています。この活動は、3年前から始まったものですが2006年度には学生表彰をして頂きました。そのこともあり以前と比べ、清掃作業中に一般学生が手伝ってくれることが多くなりました。このことからこの活動は今の愛知教育大学に必要な活動だと思っています。しかし、それでもまだこの活動に参加している人は限られています。なので今後は今まで以上に多くの学内の皆さんにこの活動を通してキャンパス環境について考えてもらえるように活動していくのが、大きな課題です。



写真：生協学生委員による学内クリーン作戦の状況

### ◇ゴミ0レンジャー

これは愛知教育大学の大学祭の時に登場するレンジャーです！！大学祭の時は飲食店が多数出店していることもあり多くのゴミが出るのに加え分別もしっかりできていないのが現状です。そこでこのゴミ0レンジャーは1時間ごとに学内の清掃作業を行い、さらに学内の皆さんにゴミのポイ捨て禁止や分別について放送で呼びかけを行いました。



### ◇ゴミを捨てない！当たり前のことのできる人に(ラグビー部)

愛教大ラグビー部は、毎週水曜8時15分から30分程度、学内の清掃活動をしています。この活動は2006年2月から始まり、同年12月に現在の活動が固定化されました。活動内容は主に学内を回りながら落ちていたゴミを拾う作業です。最近ではラグビー部以外の人も手伝いに来てくれるようになりました。この活動をしていく中で感じたことは「本当にゴミの多い学校だ」ということです。4千人の人が毎日使っているのですからゴミが出ないことはないと思うのですが、あまりにも多いゴミの量に驚いています。飲み会で使ったであろう缶やボトルが大量に捨ててあったり、自転車や電化製品など明らかに捨て場に困って故意に捨てたと思えないものまで捨ててあります。僕はこんな愛教大の状況は教育大学にあるまじき一面だと思います。教員になった人のほとんどが「ゴミを捨てるな」「きれいに掃除しよう」と言うでしょう。しかし大学生のうちにはむしろ自分がゴミを捨てる側にまわっている。それでは自分のことを棚にあげていると思えません。教師を目指す人にとって大学生という今現在も人の見本となる行動をとるべきなのではないでしょうか。

この活動が始まって2年と半年くらいになりますが、まだほとんどの学生にこういった活動の存在は知られていません。正直なところ僕達ラグビー部十数人が週一回の掃除をしたくらいでは、大学をきれいにするところまでいかないと思います。学校を使っている全員が学校の汚さを自覚して、一人ひとりがちょっとした努力をすることが学校全体をきれいにするにつながると 생각합니다。



写真：ラグビー部による早朝のゴミ拾いの状況



## ～ 学生・教職員が一体となって実施した環境活動 ～



### ◇卒業時のゴミ出しについて啓発ポスターを作成

卒業後に放置されたり不法投棄されるごみの問題を少しでも解決するため、卒業生・修了生に向けてゴミ出しルールを周知しました。社会人として巣立っていく卒業生・修了生に基本的なルールを守ってもらうことが、大学として最後の教育の一つであると考え、研究室、クラブサークル室のみならず下宿、寮の引っ越しごみについても指導しました。



### ◇環境リサイクル市を開催

環境ミーティングに参加した学生有志から、卒業生のゴミ排出減と、新入生への低価格の物品の提供、収益金による学内緑化の目的で今年も環境リサイクル市を実施しようとの提案があり開催しました。3月7日の前期合格発表日に有志の学生約30名が参加し昨年より盛大に実施できました。寄附物品も72品目に及び途中から衣装ケース、テレビ等追加の寄附も持ち込まれました。収益は8250円でした。昨年の収益金と合わせて温暖化対策として第一共通棟の壁面緑化に使用する種子及び苗購入に充てました。また、技術科の太田教授の指導の下に苗を植えて、ゴミの減量、新入生の支援、温暖化対策といった一連の活動を遂行できました。今年のリサイクル市には、漫画キャラクターのかぶり物が登場し大いに会場を盛り上げました、かぶり物自体も購入され引き取られた後、附属特別支援学校で再活躍したとのことです。



### ◇環境報告書ダイジェスト版を作成し新入生全員に配布

新入生に省エネルギーや正しいゴミ出しルールを周知するため、環境報告書ダイジェスト版を作り、配布しました。内容は、生協学生委員やラグビー部の実施している環境活動への参加呼びかけ、エネルギー消費の現状とその削減の進め方などです。今年度も早い時期に作成し、環境マインドを持った人材を育てたいと計画しています。

ダイジェスト版の表・裏ページ

## ～ 薬品・廃棄物に関する管理・取扱状況 ～

### ◇伊良湖臨海教育実験実習施設における薬品管理と実験廃液処理への対応

防災施設関係の学内監査において、伊良湖臨海教育実験実習施設の薬品類管理について指摘がありました(2007. 9. 18)。水質汚濁防止検討委員会委員及び保健環境センターで関係講座に確認し、回収撤去等をし、以後、実験系管理者が常駐しない実験実習室および薬品類の適正管理のためのルールを明確にしました。



指摘事項1. 実験器具と試薬類の混載戸棚



指摘事項2. 実験室の隅に置かれた実験廃液のポリ容器

### ◇本学が処分委託した産業廃棄物処理場の視察

2月、保健環境センタースタッフ3名は、2007年度の実験系廃液など化学物質系廃棄物の処理を委託した三友プラントサービス(株)第一工場、及び第二工場を現地視察しました。目的は、文書資料等で行う事前調査ではわからない部分を確認し補完すること、回答内容と実際に相違がないかを確認することです。

同社では排出者から収集した廃棄物を、第一工場まで運搬し、処理工程で再分別しバーコード処理して、それぞれの工場に運んで処分しています。したがって、本学から出された廃棄物の処理状況を追跡できます。

第一工場は焼却処分が中心で、固定床式水冷焼却炉とロータリーキルン焼却炉で燃やされ、排ガスは湿式電気集塵機で処理され、高い煙突より放出されています。第二工場は焼却しない廃棄物の凝集沈殿などの化学処理を行っています。想像よりも大きな処理プラントが狭い敷地内に設置されていました。大型重機も配備され、さまざまな形状の廃棄物が大量に持ち込まれることを示していました。第二工場では、分析用にICP-MS等の高感度分析計を備えていました。

見学のと、現場担当者から前処理の方法、不明物の分析方法、スラッジの保管方法および最終処分の方法を聞きました。事務室には、労働安全衛生の目標スローガンや、仕事に関する資格取得状況が掲示されていて、マンパワーの充実に努力している様子が見られました。



本学の委託した産業廃棄物処理場での分析室及び処理場の様子

## ◇廃棄物処理管理技術能力を事前評価する『調査票』の作成

本学の環境配慮計画では、「教育研究系廃棄物の適正処分の推進と安全管理の徹底」を挙げ、『処分業者選定条件の検討』を掲げていました。保健環境センターが中心となって廃棄物処理のあり方を総合的に検討する中で、大学として統一した『処分業者選定条件と事前審査』の方法について、財務課、経理課、施設課、学部事務と協議を重ねました。その結果、処理委託業者の処理能力を本学独自の『調査票』への回答により評価することとしました。そして、実際に委託する業者の処理場を視察して、事前調査ではわからない部分を確認することとしました。

調査票は、委託すべき廃棄物の内容がわかった時点で、財務課調達係より複数の産業廃棄物処分業者に廃棄物の概要とともに送られ、業者は、見積書に調査回答書に事業責任者氏名と捺印したものを併せて提出します。調査回答書は、特別管理産業廃棄物管理責任者と保健環境センタースタッフが協力して点検され、コメントがつけられて契約担当課に提出され、それを参考に契約手続きが開始されることになりました。

## ◇内容説明が必要な産業廃棄物の取扱い手順を明確化

保健環境センターでは、大学から学外業者に処分委託される産業廃棄物のうち、見かけ上取扱者が過剰な不安を持つ可能性があると思われる粉状・粒状・細片状物質について、回収、貯留、管理等の手順について検討し、先に進めてきた擬似感染性廃棄物の分別手順とあわせて標準化し、学内周知しました。

写真1.2は実験系廃棄物として発生したのですが、どちらも外観は白い粉状物質です。写真1は、化学系実験で使用され発生した微量の亜鉛汚染のあるセライトです。これは、廃棄物処理委託時に交付されるマニフェストでは「汚泥」という区分にチェック記録されますが、有害危険性で特別に管理されることはありません。このセライトの粒子は細かく、不容易に扱えば粉じんとなって作業者が吸引するおそれがありますし、酸性液によって漏洩すると亜鉛の流出も起こりえます。写真2は糖類汚染のあるシリカゲルで、よく見ると薄茶色に変色している部分がありますが、危険性は全くありません。こちらもマニフェストでは「汚泥」です。

本学では、これまでも、外観からでは安全性等が不明な廃棄物も含めて、いかに適正な処理をするかという課題を検討してきました。実験廃液データシート作成や、アスベストを包有する理化学耐熱機器の分別処理、水銀を包有する機器・器具類の分別処理などがあげられます。本学では、廃棄物処理のほとんどを外部委託にしているので、廃棄物の合理的で適正な処理を確保するためには、優良な処理業者との信頼関係の構築が重要です。廃棄物の発生現場を知る者が、処理現場にその廃棄物内容を正確に伝えることは、適正処理の実現に大きく寄与します。



写真1. 亜鉛汚染のあるセライト 写真2. 糖類等汚染のあるシリカゲル 写真3. 内容証明シール貼り付け例

- \* 写真1.2は、排出者から提出された産業廃棄物内容説明書と当該廃棄物
- \* 写真3は、シールを貼り付けた廃棄物例

## 説明を必要とする産業廃棄物の取扱い手順（2007）

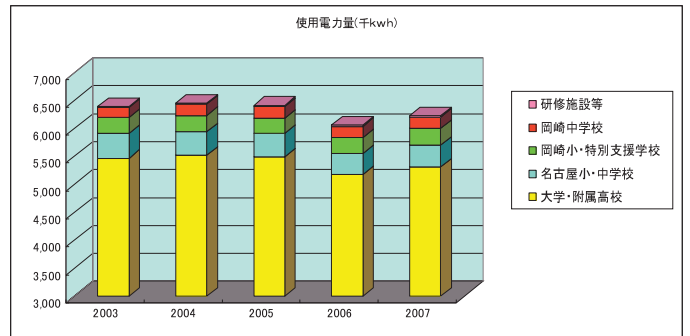
排出者が『産業廃棄物内容説明書』を提出→管理者による確認作業→『産業廃棄物内容証明』シールの発行→廃棄物への内容表示、及び記録→処理業者への内容説明→廃棄物処理委託後のデータ管理



## ～ 総エネルギー投入量及びその低減策：電力 ～

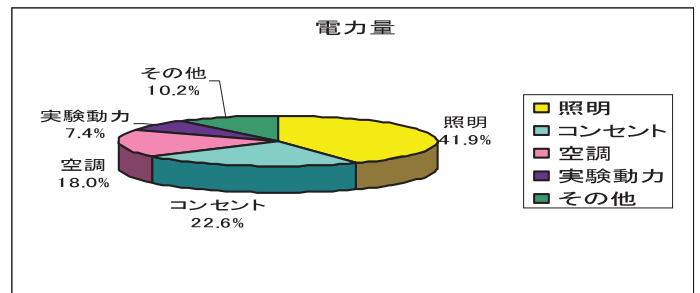
### ◇電力の使用量と低減のための取り組み

2006年度は、図書館が耐震補強工事により使用できなかったこと等により前年度に比べて5%の削減となりましたが、2007年度では、逆に2.8%増加してしまいました。しかし2003年から2005年までの使用量に比べて3%程度の減少傾向を示しています。2006年度と2007年度の夏期3ヶ月間の気温及び猛暑日、真夏日を比べると2006年度の方が平均気温も高く、真夏日も多かったですが、2007年の6月は高温・小雨となったため1週間程度早く冷房を始めました。また、8月に入り記録破りの高温が続き冷房による電力が増加したものと思われます。



### ◇節約キャンペーンの実施

2007年度は、5月から節約キャンペーンを実施し、省エネルギー、省資源、ゴミの減量化についての協力要請をしました。節約キャンペーンの一環として、ポスターを募集したところ、9作品の応募があり、附属名古屋中学校2年生の大海美波さんの作品が優勝しました。大海さんの作品は、地球温暖化でペンギンたちが泣いているかわいい作品になっています。募集期間終了後、第一共通棟のリフレッシュスペースで展示会を実施し、節約、省エネルギー、地球温暖化防止等をうったえました。今年度は、具体的な削減策として壁面緑化による空調エネルギーの削減を計画しています。緑化の財源のうち苗の購入などについては、学生ボランティアが活躍した、環境リサイクル市の収益金が使用されることになっています。



年度	平均気温	平年差	猛暑日	真夏日
2006年度	26.0℃	+0.8℃	14日	55日
2007年度	25.8℃	+0.6℃	14日	51日

- ECO
- ・ 昼休みには消灯しよう。
  - ・ 帰宅時にはポットやコピー機の電源を切ろう。
  - ・ 空調の温度は夏28℃冬19℃を遵守しよう。

- ECO
- ・ シーズンオフにはエアコンのブレーカーを切ろう。
  - ・ エレベーターを使わず階段を昇ろう。



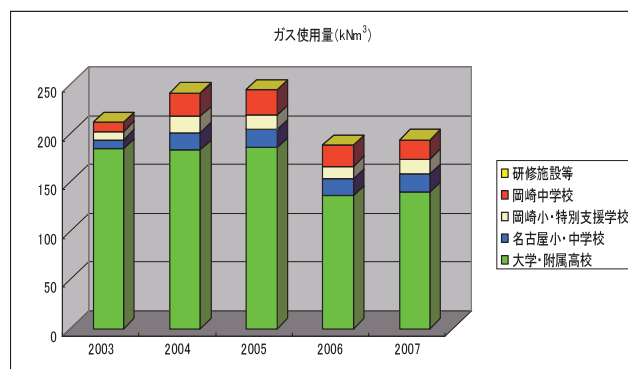
写真は、第一共通棟リフレッシュスペースに展示された節約キャンペーンのポスターです。



## ～ 総エネルギー投入量及びその低減策：ガス ～

### ◇ガスの使用量と低減のための取り組み

本学では、老朽化したボイラー設備を高効率のガスヒートポンプ式空調機等に更新することにより、温室効果ガスを削減するように計画しています。2007年度においても附属特別支援学校中等部、附属高校等をガスヒートポンプ式空調機に更新し、ボイラーを廃止しました。（附属高等学校の整備については保護者の方々の協力により設置できました。）ガス使用の空調設備が増加したことや、暖冬であった2006年度（平年差+1.9℃）から2007年度（平年差+0.5℃）のほぼ平年並みに寒さが戻ったため暖房によるガスが増加したものと思われます。ただ、2003～2005年と比べると20%程度低く抑えられています。また、本学のガス使用割合は、ほぼ60%が空調によるものとなっています。空調機の一括管理や冷房28℃暖房19℃の遵守などにより、ガス使用の抑制を図っています。



### ◇重油の使用量の削減のための取り組み

大学の重油使用量の低減のための取り組み状況を報告します。

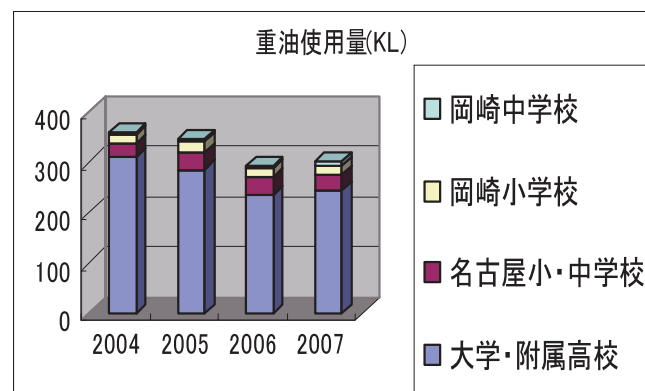
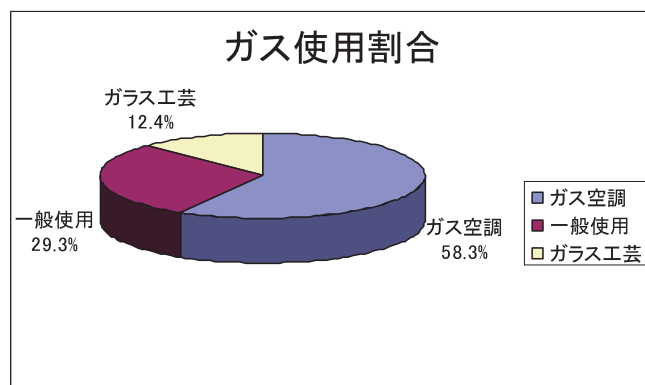
#### 【現状の設置機器】

高温水ボイラー（2640Mcal/h）1969年設置3基

高温水ボイラー（2631Mcal/h）1979年設置1基

#### 【実施対策】

- ①2005年度にボイラー稼働台数を平均4台から2台に変更
  - ②ボイラーの運転日数を73日から64日に削減
  - ③気温の高い日は、ボイラーの稼働時間を短縮
  - ④暖房配管システムを4系統から3系統に統合
  - ⑤暖房を使用していない部屋の暖房設備を中止
- 以上の節減対策を順次実施して2006年度では2004年以前に比べて30%の削減が出来ました。しかし、2006年度が記録的な暖冬であったこともあり2007年度では逆に1.9%の増加になりました。また、重油の単価が約40%も上昇したことにより約600万円の支出増となりました。2008年度は、附属名古屋中学校のボイラー廃止、さらなる運転の見直しにより、重油の使用量低減を計画しています。



- ECO**
- ・使用しない時は暖房用バルブを閉めましょう。
  - ・しっかり着込んで暖房控えめに。
  - ・シャワーは使用を最低限に。



ガス使用量の約60%は空調で使用されています。

推奨設定温度  
夏季28℃ 冬季19℃  
を守ろう

#### 名古屋の12月～2月の気温

年度	平均気温	平年差
2006年度	7.1℃	+1.9℃
2007年度	5.7℃	+0.5℃



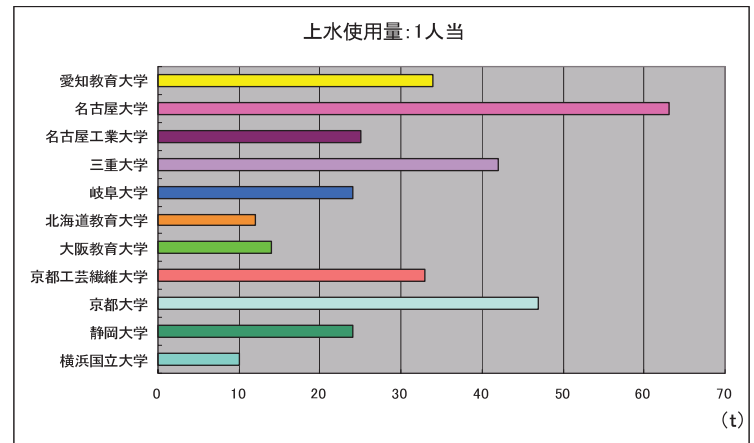
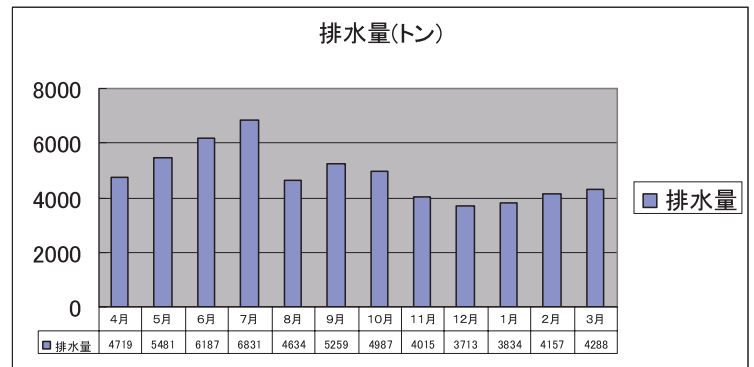
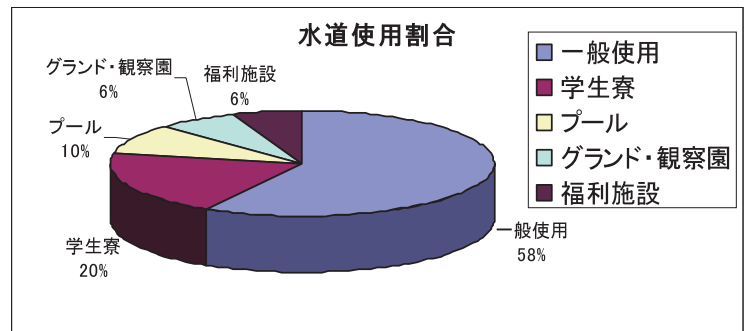
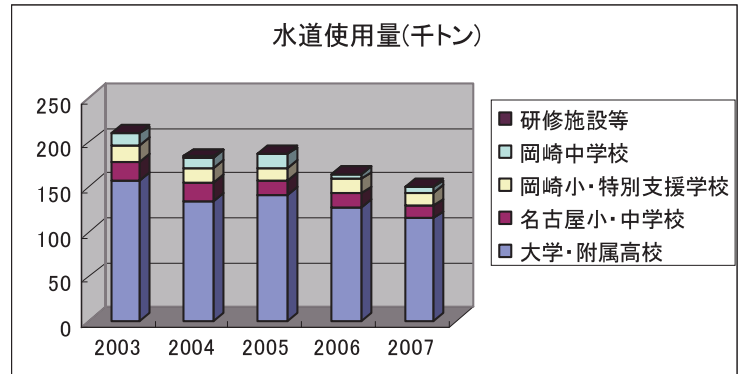
## ～ 総エネルギー投入量及びその低減策：水道 ～

### ◇水道の使用量と低減のための取り組み

水道の使用量は、引き続き減少傾向にあります。附属小・中学校校舎5棟、大学の校舎5棟の耐震改修工事と並行して実施した便所改修のため使用水量が減少したのと思われます。便所改修の都度、節水型便器・水栓への更新及び擬音装置の設置等により節水を図っています。昨年度の水の使用割合で見ると、プール、グラウンド等での散水に使用する水量は16%にすぎません。排水量から夏季には、シャワー等により増加し冬季には減少しています。10月から3月までの使用量の大半が便所等によるものと思われます。引き続き、便所を改修し節水を進めようと計画しています。2007年度発行の他大学の環境報告書と比較すると病院・工学部等を含む総合大学より使用量は少ないものの他の大学と比較して1人当たりの使用量が多くなっています。今後とも使用量の多い理由を調査し、節水に努めて行きたいと考えています。また、刈谷地区は昔からため池が多く、用水の工夫をしながら農業を進めている土地がらですから、他大学で進められている井水、雨水、工業用水の利用についても可能性を検討したいと考えています。

**ECO** ・流しっぱなしでの使用は止めよう。  
・シャワーは、必要最低限に。

排水の総排出量は給水量の約半分しかありません。グラウンド、実習園への散水、プールの清浄な排水が雨水系に放流されていること等を除いても84%の排水があるはず。概要にも記載したとおり1970年に井ヶ谷地区へ移転してから森林を大切にしてきましたが、約40年のうちに樹木の根が当時の鉄筋コンクリート管のいたるところの継ぎ目から入りこみ排水管を閉塞、破壊しています。本学の排水の何%かは樹木が吸収し自然に循環していると思われますが、適切な排水が出来るように継ぎ目の無い塩化ビニル管への更新を計画しています。





## ～ 化学物質取扱状況・環境会計情報 ～

### ◇化学物質取扱状況

本学では、教育・研究に使用する化学物質を適切に管理するため毎年調査を実施しています。調査データは、労働安全衛生法、消防法、毒物及び劇物取締法、PRTR法等によってなされる調査への回答に使用しています。2007年度に使用した化学物質のうち主要なものは以下のとおりです。

化学物質名	2007年度 (Kg)	2006年度(Kg)	労働安全衛生法	消防法	毒物・劇物取締法	PRTR法
メタノール	201	134	第二種有機溶剤	第4類7アルコール類	劇物	—
クロロホルム	180	190	第一種有機溶剤	届出(200kg)	劇物	第一種指定化学物質
ジクロロメタン	168	180	第二種有機溶剤	—	—	第一種指定化学物質
エタノール	139	123	名称通知	第4類7アルコール類	—	—
ヘキサン	107	122	第二種有機溶剤	第4類第一石油類	—	—
酢酸エチル	90	121	第二種有機溶剤	第4類第一石油類	劇物	—
アセトン	86	77	第二種有機溶剤	第4類第一石油類	—	—

※2007年度PRTR法（化学物質管理促進法）により届出が必要な特定化学物質で1トンを超える取扱量のものは有りませんでした。

### ◇反響にびっくり！！附属図書館蔵書のリサイクル事業を行って

附属図書館では、これまで古紙回収や焼却処分されてきた「重複する図書や汚損した図書」約18,000冊について、学生や一般市民を対象に1冊100円で販売することにしました。このことは新聞やインターネットニュースでも取り上げられ、約1400件の問い合わせがあり、約13,000冊が有効利用されることになりました。収納スペースの狭隘化はどこの図書館でも悩みの種で、除籍図書の廃棄処分はこれまでひとつの解決策として当たり前に行われてきました。今回のリサイクル事業のきっかけは2005年、2006年度に刈谷市中央図書館との共同催事として行った「環境についての教科書と絵本展—ドイツを中心に」を通じて、図書館職員の中で「除籍図書をただ廃棄処分してしまっているのか」という問題意識が芽生えたことです。費用対効果を考えると決して効率のよい事業とはいえませんが、一般市民の図書に対する熱い思いも実感できましたし、この事業への反響の大きさに驚きと喜びを感じることができました。

### ◇環境会計情報

2007年度に環境対応として支出した金額は約4600万円でした。収入総額が70億円でそのうち人件費が80%を占める本学にとって、物件費の3%を超える大きな割合を占めています。燃えるゴミから再生利用可能な紙ゴミを分別しリサイクルすることや節約キャンペーン、環境リサイクル市など様々な工夫をしています。今後も、樹木の剪定で出た材木を彫刻、木工、陶芸用の薪に使用したり、人感センサー付高効率照明器具への更新を進めることにより環境を重視し、経費を削減していこうと考えています。

#### 2007年度の環境関係費用

#### 実施項目

単位(千円)

生活排水処理施設保全	4,724
ボイラー冬期ばい煙測定	213
植栽関係	9,177
清掃関係	19,929
作業環境測定	1,069
一般廃棄物収集運搬及び処分	6,510
廃棄物運搬及び処分(上記以外)	3,313
家電リサイクル収集運搬及び処分	305
伊良湖施設浄化槽保守点検	21
モノシランガス漏洩検知設備定期点検	147
地下タンク等漏洩検査	500
平成19年度汚染負荷量賦課金	29
合計	45,937